オポナカムラ彩発見!!

オポナカムラは古代語で「大中村」の意。
国指定史跡「大中遺跡」の最新の調査をもとに、様々な観点からふるさとの誇れる遺跡について考えてみたいと思います。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079（435）5000

外壁洗浄で白さを取り戻した資料館

播磨町マスコットキャラクター
いせきくん、やよいちゃん

3 「播磨大中古代の村」誕生秘話と播磨町郷土資料館の建設

昭和37年に発見された大中遺跡は、その後の発掘調査により、約1900年前（弥生時代後期）の遺跡であることがわかりました。遺跡の現在の大きさは、長さ500メートル幅180メートル、広さ約7万平方メートルで、これは甲子園球場の5個分に相当します。

大中遺跡の整備は、遺跡発見から10年後の昭和47年に兵庫県教育委員会が作成した、『播磨大中古代の村』建設計画によって進められました。計画では、大中古代の村を〝都市生活の中に失われつつある人間性回復の場〟としたことは、現在のわたしたちのストレス社会をまるで予測していたかのような錯覚さえ感じさせます。

さらに、〝子どもたちの歴史教育の場〟として整備することは、兵庫県内では、初めての試みでした。そのため、「史跡の保存や住居跡の復元」のみにとどまらず、資料の展示をはじめ古代の生活環境を再現し、体験できる施設として計画されるなど大がかりなものとなりました。

しかし、翌年11月（昭和47年）、中東戦争によるオイルショックが起こり、大型公共工事は凍結・縮小されました。古代の村の工事も例外ではなく、いつ完成するかわからない日々が続きました。そのため、昭和49年9月、整備途中であるにもかかわらず「播磨大中古代の村」を開園し、将来に夢を託すことにしたのです。

一方、別府鉄道を挟み、史跡の南側は未整備で、また大中遺跡の出土品の大半は、当時の発掘関係者や関係機関に分散保管されていました。そのため、遺跡の出土品をはじめ郷土の先人の残した文化遺産を一堂に集めて展示する施設を南側に造ってはどうか、という世論が湧き起こりました。「展示施設は、国か県がつくるべきだ」「そんな悠長なことをいっていたらいつになるかわからない、町単独でもやるべきだ」などといった議論が百出しました。そのような中、別府鉄道が昭和59年1月に廃止されることが決まり、史跡南側の整備が可能となりました。

資料館建設用地の発掘調査では、古墳時代中期のカマドのある竪穴住居跡などが発見されました。そのため、遺構を壊さないよう土台が船底のような工法で建てられ、昭和60年11月1日、播磨町郷土資料館が開館しました。（郷土資料館）

町の人口 5月1日現在（住民基本台帳人口＋外国籍人口）
34,208人（＋24人） 男…16,807人（＋15人） 女…17,401人（＋9人） 世帯数…13,583（＋43）

広報はりま 発行／播磨町役場 〒675－0182（個別番号） 兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号 TEL 079（435）0355 FAX 079（435）0609 編集／企画グループ 印刷／明光印刷
播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp
〃 Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp

PRINTED WITH SOY INK Trademark of American Soybean Association